

令和5年度阿倍野区区政会議 福祉・健康づくり部会における
令和6年度施策・方針に向けた主な意見等

令和6年度に向けていただきたい意見

- ・現在、地域福祉活動に関わっていない区民の「気にかける」意識を高め、行動につなげていくためには、どのような取組を進めていけばよいのかについて

第1回部会（令和5年7月13日開催）における委員からのご意見等

○イベント等を通じたつながりづくりについて

- ・地域の方々が、様々な活動を継続されているが、以前のようにお住まいの方のことが分からない状況になっており、子どもが少なくなり、高齢者や認知症の方が増えていく中で、今までの活動をより充実させることは大切だと思う。
- ・昔からの方は顔見知り、お付き合いがあるので世帯の状況は把握されてる。それ以外（新しいマンションの方）とのギャップが町会での問題となっている。
- ・30～50歳代の方に、イベント等へ参加してもらうには、阿倍野区独自のスポーツイベントなどを開催して、子どもと一緒に参加してもらうようにしたらいいと思う。

阿倍野区は卓球の「王子サーブ」が生まれたゆかりの地であるので、もう少しアピールし、子どもとその親、高齢者までが参加できる卓球大会などのスポーツイベントを開催すれば、運動の機会になるだけではなく、皆さまが集まる場になるし、新しいボランティアを発掘する場としても有意義ではないか。

また、人が多く集まる食を伴うイベント（どっぶり、昭和町。）で町会や福祉のことなどについてアプローチできたら効果あると思う。

○要援護者名簿の活用について

- ・町会長は地域の全体的なことは分かるが、細かいところは分からないので、地域にお住まいの高齢者の状況をどう把握するかが問題である。
- ・町会長が要援護者名簿をよく知り、利用する体制ができていないと思う。
- ・地域のコーディネーターと町会長が、要援護者名簿や食事サービスの訪問状況の情報を共有できたら、地域の変化が少しずつ分かってくると思う。

○地域のつながりについて

- ・仕組みを作ることからではなく、ニーズを把握し、福祉課題を1つでもいいから解決していくことからスタートすればもっとみんなを巻き込めると思う。
- ・福祉部会は福祉だけではなくて、まちづくりでいろんな人たちとつながって、いろんな発想が出てくると思う。アプリにしても、まちづくりの活動をしている元気で若い学生たちも入っている中で提案したら、すぐできるかもしれない。予算・時間がかかる、先送りにするのではなく、すぐに動けるようなこともあるかなと思う。考え方として地域の中で育てあげてきた活動にプラスしていけば、地域の広がり・つながりが深まっていくような気がしている。

○緊急連絡先について

- ・独居・障がいの方の緊急連絡の登録は町会でやったらいいかなと思う。
- ・民生委員では独り暮らしの家庭に、冷蔵庫に入れておく「あべのあんしんキット」という取組をしている。これも民生委員だけでなく町会にもつなげていったらいいかなと思う。
- ・「あべのあんしんキット」の内容が更新されないので、どこかで見直しが必要と思う。

令和6年度に向けていただきたい意見

- ・一人一人の健康意識を高め、主体的に健康づくりに取り組んでいただくため、地域ぐるみでどのような取組を進めていけばよいのかについて
- ・イベントや地域活動の新規参加者の開拓に向け、どのような情報発信が効果的かについて

第1回部会（令和5年7月13日開催）における委員からのご意見等

○健康づくりについて

- ・いきいき百歳体操は、多くの人が集まって参加する仕組みだが、自宅で実施し、報告できるような工夫はできないか。日々の健康活動を記録し、その結果がポイントとなって抽選でプレゼントが当たる「アスマイル」というものがある。このような形で何か阿倍野区版のアプリができれば、個人の参加が浸透しやすいと思う。

プログラムの作成やお金の問題はあるが、姿勢としてそういう方向を向くかが大切である。ラジオ体操の主催者側になると苦労も多く、朝早いので音量による苦情もあり、音響設備の準備や開始時間までの待機なども大変である。個人が好きな時にラジオ体操をして、アプリに登録するなどの方法で報告するといったシステムも必要ではないか。

この会議の一つの目的は、区役所が支援するための方法について、我々がいろいろな意見を出してる。それに対して、行政のほうからできないというふうな感覚ではなくて、どうやってできるかという方向で議論をしてほしいと思う。